

薩摩、「郷中教育」に思う！



前号で、上級生が下級生を可愛がる姿もあちらこちらで！という話をしました。そこで思い出したのが「郷中教育」。幕末から明治にかけて、薩摩藩の加治屋町あたりの狭い集落から、西郷隆盛や大久保利通など沢山の偉人が輩出されています。そこでは、「郷中教育」という独自の教育が行われていたそうです。6歳から15歳くらいの少年が集まり、そこに15歳以上の先輩がついて行う自習システム。その特徴は、

- ① 異年齢による「学び合い」の風土
- ② 「武芸がダメなら学問で」、という多様性が認められていた
- ③ 「自分に負けるな」「嘘はつくな」「弱いものをいじめるな」というシンプルな掟があった

縦の繋がり、地域の繋がりが希薄になっていると言われる現代社会、自分さえよければという考えがまかり通る社会の中で、考えさせられる教育のあり方です。自由闊達な中にも凜とした厳しさが感じられる世界。何より、よき先輩がよき後輩を育てる。その繋がりが魅力。本校には、その縦割り活動が息づいています。「さわやかタイム」という名称で実施されている縦割り遊びもその一つ。異年齢で活動するその姿、これからも楽しみにしていきたいと思っています。

5月10日(金)に実施された「新入生歓迎集会・歓迎遠足」でも縦割り班での活動が取り入れられ、笑顔が広がりました。



全校朝会の話

(前略) さて、5月1日から、新しい時代が始まりました。高学年の人は分かるかな？そう、「令和」という時代です。「令和」の「令」には、清らかで美しい、おめでたい。「令和」の「和」は、穏やかで争いのないという意味があるのだそうです。「穏やかで美しい時代を創っていけるよう」努力していきましょう！

長いGWでしたね。校長先生も家族で、長崎に出かけました。せっかく来たので、市電に乗ろうということになりました。市電に乗り暫くすると、満員になり、お年寄りの方が、乗ってこられました。その時、若い娘さんが、さっと席を立ち「どうぞ」と声をかけました…。その清々しい光景を見て、思わず千代田のことを思い出しました。なぜだか分かる？(中略) このお嬢さんのような「美しい行い」「善い行い」を広め、「白鳥蘆花に入る」という言葉に思いを込め、良い社会を創ろうと努力した人が下村湖人先生です。事務室の前に大きな写真と新聞記事がありますよ。担任の先生からもお話を聞いて下さいね。

さて、みなさん。みなさんの心の中にも、「美しい心」はありますか？大丈夫です。校長先生は、たくさん美しい心を持った西部小の子どもを知っています。これからどんな「美しい心＝善い心」で周りの人を幸せにしてくれるでしょうね。校長先生は、楽しみにしていますよ。

～ほっと一息～

「一休和尚の遺言」

一休和尚の遺言というおもしろい話があります。一休さんは亡くなる時、大徳寺の高僧たちに遺言状の入った箱を残したそうです。しかし、この箱はすぐに開けないようにと念を押し、大徳寺の浮沈にかかわるような、本当に困った時に開けてみるようにと。

その後、寺に大問題が起こり、名僧たちが知恵を出し合い協議をしたが、いい案が浮かばなかったそうです。その時、ある僧が、一休和尚の遺言を思い出し、みんなで開けてみることにしました。遺言状には、「ナルヨウニナル シンバイスルナ」とだけ書いてあったそうです。遺言を見た僧たちの、ぽかんとした表情が目につくようですね。

「全力に悔い無し」(前サガン鳥栖監督松本育夫さんの言葉)、いい意味での開き直りも大切です。あとは、「川の流れるように…」

